

平成29年度 学校評価 中間評価

府中市立 第一中学校

中期経営目標 【3年間】	短期経営目標 【1年目】	目標達成のための手立て	評価項目<評価方法>	評価	中間評価
確かな学力 及び課題発見・解決学習の充実 <一中におけるコンピテンシー育成>	・「一中におけるコンピテンシー」育成のための「主体的な学び」となるよう各教科で授業を実践し、自律的に学び、活動できる生徒を育てる。	・全ての教員が各教科の授業で「一中におけるコンピテンシー」育成のための「主体的な学び」となるよう各教科での授業の工夫、改善を行う。 ・広島県公立高等学校入試問題の傾向を検証し、各教科で評価問題を作成する。	・「各教科の授業がわかる、面白い、樂しみである」の3項目で肯定的な回答をする生徒の割合が70%<生徒アンケート>(4月、6月、2学期の計3回実施) ・「各教科において評価問題を開発することができた」という肯定的な回答をする職員の割合が100%<職員アンケート>(3学期実施)	3	・「授業がわかる、面白い、樂しみである」の3項目での生徒アンケートの結果は次の通りとなった。 6月実施結果 授業がわかる(85.6%) 授業が面白い(76.4%) 授業が樂しみである(70.9%) 肯定的な回答をした生徒の割合はどのアンケート項目でも目標を上回ることができている。校内授業研究会も10月現在で11回実施しており、「主体的な学び」に向けた教職員の授業改善の結果が生徒アンケートにも表れている。今後も、校内授業研究会を積極的に実施し、生徒アンケート結果に基づいた授業改善を推進する。 ・全教科で広島県公立高等学校入試問題を意識した定期試験問題の作成に取り組んでいる。今後も教科グループや教科会を活用し、評価問題の作成に取り組んでいく。
	・授業規律を大切にし、「書く力」「伝え合う力」を高める指導及び家庭学習の定着の充実を図るとともに、自分の考え等を分かりやすく書き、伝え合うことのできる生徒、また、自ら学ぶ力を身に付けた生徒を育てる。	・「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、「振り返り」を充実させる。 ・自分の考えをノートにまとめたり、伝え合ったりする場面（言語活動の活用等）を充実させる。 ・各学年の家庭学習目標時間（学年+1時間）に応じて、宿題の出し方（量、期限等）を教科担任間で連携・調整する。その状況を担任も確認し、必要に応じて保護者連携を行う。	・「基礎・基本」定着状況調査の平均通過率60%以上の生徒80%以上、30%未満の生徒を0(6月実施) ・自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」「相手意識をもって、分かりやすく伝えている」生徒70%<生徒アンケート>(各学期末に実施)	2	・「基礎・基本」定着状況調査の結果（通過率）は次のとおりである。 第一中学校 国語(71.0%) 数学(68.6%) 理科(55.1%) 英語(78.5%) 広島県 国語(69.2%) 数学(66.9%) 理科(50.8%) 英語(72.4%) 60%以上の生徒 国語(74.5%) 数学(63.9%) 理科(53.2%) 英語(81.1%) 30%未満の生徒 国語(4.0%) 数学(4.0%) 理科(11.4%) 英語(0.8%) 教科で数値の差はあるが、県平均をどの教科も上回ることができるので、生徒に力をつける授業づくりを続けていく。 ・自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」(89.7%)「相手意識をもって、分かりやすく伝えている」(78.0%)であった。ノート指導、言語活動の充実、指導等を学校生活全体で引き続き指導していく。
豊かな心	・組織的な生徒指導体制を確立し、問題行動の未然防止に努める。 ・自治的活動を推進し、生徒一人一人の自己指導能力を育成する。	・生徒指導部会を週1回開催し、情報の共有化と今後の指導方針を確立させる。 ・生徒会活動や学級活動を充実させ、集団の一員としての役割と責任を自覚させる。	・「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」「身だしなみ（服装・頭髪）のルールを守っている」生徒100%<生徒アンケート> ・「本気で（時間いっぱい、ていねいに）掃除をしている」「誰にでも、自分からレベル5のあいさつを意識してできている」「自分の学校や学級での役割を果たすことができている」生徒100%<生徒アンケート>	2	・「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」という設問に対して、肯定的回答をした生徒は94%、昨年度との差はない。「4-よく当てはまる」と回答した生徒は72%で、昨年度より6ポイント増であった。 ・「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」という設問に対して、肯定的回答をした生徒は94%、昨年度より1ポイント減。「4-よく当てはまる」と回答した生徒は47%で、18ポイント減であった。 ・「本気で（時間いっぱい、ていねいに）掃除をしている」という設問に対して、肯定的回答をした生徒は94%、昨年度より4ポイント増。「4-よく当てはまる」と回答した生徒は47%、昨年度より8ポイント増。 ・「自分の学校や学級での役割を果たすことができている」という設問に対して、肯定的回答をした生徒は95%、昨年度より1ポイント減。「4-よく当てはまる」と回答した生徒は64%、昨年度より1ポイント減。  全体的に肯定的回答をした生徒の割合は9割を超えており、目標値の100%には届かなかった。昨年度との肯定的回答の比較では、大きな差はないが、時間を守る項目の「4-よく当てはまる」と回答した生徒の割合が昨年度よりも大幅に下回っている。これは、時間への意識の低下も考えられるが、3分前行動の意識が定着し、自己評価が厳しくなっている面もあると考えられる。今後は生徒指導部を中心に、生徒会活動と連携して改善を図る。改善できたところは、肯定的評価を行い、生徒の自己指導能力の育成に繋げていく。
	・認め合い・支え合える学級集団づくりを進めるとともに、自他ともに大切に生活できる生徒を育てる。 ・学校行事や部活動を通して、生徒の主体的な活動を推進し、思いやりの心やリーダー性を發揮できる生徒を育てる。	・QUアンケートを年間2回行い、データを参考にしながら集団づくりを進める。（分析結果等を夏季校内研修や学年会で交流し、データを活用する） ・生徒会活動や部長会を活性化し、生徒が主体的に活動する手立ての工夫を行う。（生徒朝会の定例化や集会で目標や課題の共有化を図る） ・リーダー指導・育成を充実させ、主体的な活動に繋げる工夫を行う。（学校・生徒会行事や執行部会・部長会・小中リーダー研修等を活用する）	・「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」生徒90%以上 ・「毎月の生徒会目標を意識して生活している」生徒70%以上 ・「行事（体育大会・文化祭など）や生徒会活動（執行部・各種委員会など）、学級活動（係・班など）、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」生徒100%	3	・「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」という質問に対して、肯定的回答をした生徒は87%であった。昨年との差はない。 ・「毎月の生徒会目標を意識して生活している」という質問に対して、肯定的回答をした生徒は74%で、昨年より3ポイント増。 ・「行事（体育大会・文化祭など）や生徒会活動（執行部・各種委員会など）、学級活動（係・班など）、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」という質問に対して、肯定的回答をした生徒は95%、昨年度より1ポイント減。  夏季休業中にQUアンケートの分析を行い、気になる生徒の交流やスクールカウンセラー（以下、SC）を講師に招き研修を開催した。SCから支援を必要とする生徒への指導法を学び、今後の指導実践に生かしていく。 学習係会や委員会活動の活性化、文化祭をはじめとする諸行事の仕事を分担することを通して、リーダーシップ育成とフォローワーシップ育成を行い、生徒一人一人が主体的に活動できる環境をつくる。
健やかな体	生きていく 基礎・基本となる 体力の育成	・体育授業や部活動・委員会活動等を通して、「体力つくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組・指導を連鎖的・継続的に行い、全身持久力を中心にバランスのとれた体力を身に付けた生徒を育てる。	・体育授業の準備・補強運動に体力を高める運動（特に全身持久力）を計画的に取り入れる。 ・「体力つくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組（部活動強化週間、生活リズム向上キャンペーン、駅伝大会等）を毎学期1回企画・実施・評価する。 ・「昼休憩のボールや縄跳びの貸し出し」等を行い、運動が行いやすい環境づくりを進める。	2	・体育の授業において、計画的に5分間走や筋力トレーニングを取り入れたことで、新体力テストの数値は3分の2のクラスが全国平均・県平均のどちらかを上回っていた。今後も全身持久力向上を計画的に、継続的に取り組んでいく。 ・生徒アンケートにおいて、「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」の項目に肯定的回答をした生徒は、86%で、昨年度より3%で増。本校は全体的に部活動に積極的に参加する生徒が多く、意識的に生活リズムを考え整えて意欲的に取り組む傾向がある。 ・今後、さらに規則正しい生活リズムを継続・改善していくために、2学期には、生活リズム向上キャンペーンを行っていく。